

日本臨床栄養代謝学会（現日本栄養治療学会）首都圏支部 第 15 回支部会学術集会 開催報告

大会長 山梨大学医学部外科学講座第一教室 教授 市川 大輔

2024 年 6 月 1 日に、東京都墨田区の KFC Hall & Rooms において、日本栄養治療学会首都圏支部第 15 回支部会を開催させていただきましたのでご報告申し上げます。

多職種が専門的な知識や知恵を結集して、個々の患者により良い栄養治療を行なうという考えが、技術や能力の異なる個々が Victory に向かって力を合わせるという Rugby の精神に通じると考え、「All for one 一多職種で力を合わせて一」をテーマに掲げ、学術集会を開催させていただきました。計 49 演題を登録いただき、一般演題以外に、各職部会（看護師・管理栄養士・薬剤師）セッションも設け、本学会の特色でもある職種横断的な意見交換や活発な議論を行いました。また、管理栄養士セッションでは、本学救急集中治療医学講座の森口武史先生に「重症患者に対する栄養管理戦略」と題したご講演をいただき、会員の皆様と共に勉強させていただきました。また、スイーツセミナーでは「異分野からの栄養治療への新たな視点— All for one」 というセッションタイトルのもと、本学ワイン科学研究センターの乙黒美彩先生に「日本ワインをおいしく安全に～ご存知ですか？マロラクティック発酵～」と題したご講演もいただき、食に関する知識の幅も広げました。特別講演では、2023 年にイグノーベル賞（栄養学）を受賞された明治大学宮下芳明先生に「味覚メディアの拓く世界」と題した電気味覚に関するご講演をいただき、未来の栄養学についても会員の皆様と見識を深めました。

多数の先生方に現地にご参集いただき、オンデマンド配信も含めると 853 名の会員の皆様に参加登録いただき、大変実りある会とすることができます。本学から多くの関係者にご参加いただき、附属病院の今後の栄養治療に役立つことを祈念しております。

最後になりましたが、本学術集会の運営にあたり、山梨大学医学会よりご支援をいただき心より御礼申し上げまして、学術集会の開催報告とさせていただきます。